

令和3年12月定例会会議録

(令和3年12月22日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 12月定例会会議録

- 【開催日】 令和3年12月22日（水）
- 【場所】 八代市千丁支所2階 庁議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
渡邊 裕一 教育委員
松永 松喜 教育委員
奥村 留美子 教育委員
早田 蛍 教育委員
- 【出席職員】 中 勇二 教育部長
橋口 幸雄 教育部次長
福本 桂三 教育部次長
松川 由美 教育部理事兼教育政策課長
高嶋 宏幸 学校教育課長
竹下 圭一郎 教育施設課長
田中 智樹 教育部理事兼生涯学習課長
入佐 正夫 教育サポートセンター所長
松村 哲治 博物館未来の森ミュージアム副館長
- 【事務局】 草野 弥生 教育政策課教育政策係長
西村 妙子 教育政策課参事
- 【審議事項】 <協議案件>
①協議第7号 第3期八代市教育振興基本計画（素案）について
- <報告案件>
①報告第28号 八代市議会令和3年12月定例会について
②報告第29号 令和3年度12月補正予算の概要について
③報告第30号 第6回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について
1. 開会 (午後1時59分 開会)
2. 会議録の承認 令和3年8月定例会、9月定例会、10月定例会
3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

4. 議題

〈協議第7号〉 第3期八代市教育振興基本計画（素案）について

松川教育部理事兼
教育政策課長 資料により説明

奥村教育委員 基本方針2 確かな学力の育成の部分で、冊子の大きな構成として、枠で囲んである部分が市の施策で、後は、主に学力向上など実践的に行う学校の取組であるとの説明だったが、読書活動の推進の冒頭に「各学校に学校図書館支援員を配置し、」とあるのは、市教委が行うことなので、この部分を学校が行うような表現に変更する必要があるのではないか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 「主な施策」の番号部分については、市教委が行う部分もあるし、学校にお願いする部分もある。先ほどの説明は、学校がすることだけの項目もあるという意味だった。

奥村教育委員 そうすると主語を推察することが多くなる。主語が特に必要ない時もあるが、事柄によっては、特色ある委員会施策としてとか、どんなことがあっても学校が取り組まないといけないという気持ちに及ぶのではないか。また、「不登校問題に対応した支援の充実」のところでチームの体制づくりを「する」とあるが、「する」の具体的中身、「充実」なのか「推進」なのか「確立」なのか。今の八代市の置かれた状態が思えてくるのかなと思う。さらに、教育委員の意見として、「不登校問題は社会全体で考えるべき国民的課題」となっているが、社会で考えましようということ、社会問題という言葉を使った。国民的課題とすると日本全国に飛んでいきそうで、その前に社会全体で考えるべきことがあるから、こんなことになったんだろうと思う。課題としての位置づけが最初になされているからいいとは思いますが、ちょっと感じる場所があった。

渡邊教育委員 不登校児童生徒の部分に、「令和2年度問題行動調査によれば」とあるが、保護者の立場からは、問題行動調査は誰が実施しているどんな調査なのかわからないので、文科省が行っているなど説明が必要ではないか。また、不登校対策のところ「ICT活用による学びの機会提供」とあるが、具体的にどんなイメージか。

高鳴学校教育課長 教室で行われる授業をオンラインで配信し、不登校の生徒が

家庭において視聴することで、学びの機会提供と考えている。

渡邊教育委員 「子供たちが楽しいと思える学校づくりを進めます」と追加されているが、楽しいと思えるが突然出てきたような感じがする。共通実践事項に取り組むことで、楽しいと思える学校に直結するのか。楽しいと思えるという言葉はどこかで出てきていたのか。

高嶋学校教育課長 共通実践事項については検討中だが、方向性としては、先生と子供たちの信頼関係を強めることで、落ち着いた楽しいと思える学校づくりということを考えている。

奥村教育委員 最初の頃に、策定委員の方から「それは県の取組で市独自の取組は何ですか」というお尋ねがあった。今、全体の流れの感じとして、市教委は八代教育事務所や県の方向性、熊本のまなびと協調性を取りつつ、八代の独自性を出している。その辺りについて文章表現の工夫をされた方がいいのではないかと。国や県の施策を生かしつつ八代ではもっと独自に主体性を持って特色ある教育活動を行っていかうとしていますという思いが伝わる。楽しい学校づくりは、八代市教委の中心的なキーワードなのか。国や県も子供が学校に行って楽しいと思える、楽しいという言葉は県のキーワードでもあるし、特にさらに八代市では楽しいを中心に大事にしたいということなのか。

高嶋学校教育課長 国、県等で楽しいという言葉を取り上げられているということはなかったと思う。八代がこんな学校づくりとして出した文言ととらえていただければと思う。

〈報告第28号〉 八代市議会令和3年12月定例会について

中教育部長 12月7日から9日までに行われた一般質問については、議員12人のうち6人の議員から教育部に対し次のとおり質問があった。資料により説明

①木村博幸 議員

・SDGsの理念に沿った地方創生の推進について

②山本敬晃 議員

・ICT教育日本一に向けた本市の教育現場への支援について

③橋本隆一 議員

・小中学校等における畳表の活用について

④橋本徳一郎 議員

- ・小中学校等の施設及び設備の整備計画について
 - ⑤中山諭扶哉 議員
- ・G I G Aスクール構想について
 - ⑥谷口徹 議員
- ・本市における捕獲された有害鳥獣のジビエとしての利活用について
- ・八代っ子クラブについて

奥村教育委員 中学校部活動も今後変わっていく方向だろう。休日の部活動について地域の人になっていく。学校関係者として心配するのは、休日の部活動で事故やケガがあったときは、学校関係者も知らないわけにはいかない。子供や親にとっては誰が指導者で管轄がどこかとかではなく同じ部活動という思いがあると思う。地域の方と学校がこういう部分についても話し合ったり、ルールを模索したりする場があるのか。

高嶋学校教育課長 第1回の検討委員会の中で、人材確保が難しい、ケガのことで課題がいくつか出された。これから検討していくことになるが、基本的には、部活動が平日と休日で切れるわけではないので、休日だけを学校職員が付かず学校職員と同じような指導員という形で担当する、休日に学校職員が付いていないんじゃないかという話にはならないと思われる。休日の部活動の地域指導者への移行というものじゃないかと考えている。

奥村教育委員 その辺りは先生たちが土日まで指導しなくていいシステムだろうと保護者の方も理解されるだろうが、いざケガをしたときに、琴線に触れるのは、ケガのことが伝わっていなかったなどの連携の部分だと思う。関わる人が増えるほど大変な話だが、その辺が細やかにいけばいいと思う。

松永教育委員 検討委員会に入っていたが、中学校部活動が社会体育に移行するのも時間の問題だろう。小学校と同じような体制になると思う。だから地域が育ててくれというような方針である。

〈報告第29号〉 令和3年度12月補正予算の概要について

福本教育部次長 12月17日に可決されたものについて資料により説明

- 人件費
- 社会教育施設解体事業（豪雨災害）
 - 災害公営住宅建設予定地にある建物を解体するための経費

渡邊教育委員 二つの地区の社会教育センターについては、機能を有しないということになるのか。その他の社会教育センターに統合されるなど、どのようになるのか。

田中教育部理事兼生涯学習課長 条例については廃止手続きをして、他の社会教育センターに集約すると捉えている。
現実には老朽化して使われていない。藤本社会教育センターは廃屋のようになっている。

奥村教育委員 藤本は、かつて中心だった。代替の社会教育センターはどこがこの地区を包括することになるのか。

田中教育部理事兼生涯学習課長 坂本町に残っているのは深水、鮎俣、田上、久多良木である。集約としても校区が変わってくるが、近隣でいくと、田上か鮎俣となる。藤本の場合は、坂本中と八竜小があるので、社会教育的な部分では学校を利活用できるのではと考えている。また、近隣に公園等もあるので、活動できるのではと考えている。

中教育部長 2つの社会教育センターとも、特に藤本は老朽化していたため、社会教育の拠点としての利用は、ほぼ無くなっている。壊した後に、日本財団がみんなの家という集会施設を作ってくれるというのが同時に進行し、公営住宅と併せてみんなの家という集会ができるような施設を準備し、地域の皆さんに使ってもらうことになっている。

奥村教育委員 解体される原因は、災害公営住宅の建設が進むからであるが、学校関係でいうと、何軒の小中学校の子供がもとの坂本地区に住宅ができれば、帰って住み続けたい、子育てを続けたいと帰ってこようとされているのだろうか。そういう住宅に住む人がいないと、坂本がいいから子育てしたいと思っても、全体数が減れば、学校規模にも影響するだろう。デリケートな問題として坂本地区にはある。

福本教育部次長 スクールバスで坂本中・八竜小に市内のみなし仮設や仮設住宅から通学している子供の人数をお知らせする。

高嶋学校教育課長 10/1 現在、小学校は仮設 13 人、市街地 3 人、中学校は仮設 9 人、市街地に 1 人という状況である。

- 北岡教育長 その方々全部が戻られるかというのは、別の問題である。
- 奥村教育委員 この子供たちの保護者みんなが坂本に家を建てて戻ろうかというわけでないのだろう。
- 北岡教育長 その辺りは、ご本人が決めていかれることである。
- 中教育部長 被災された方は、今も悩まれていると思う。故郷に戻って生活したいという思いと、かさ上げをする、堤防を作るという計画があるが、数年かかる。自宅を再建するにも時間がかかる。藤本には5件、中津道には1件の申し込み状況である。災害前、小学校はスクールバス、中学校は JR やバスで通学していた。今は小中ともスクールバスであるが、スクールバスの通学がいつまでできるのかという心配もある。スクールバスの運行については生活の再建が進むまでは運行を続けるというスタンスで、地元に戻りたいという気持ちが少しでも実現できるように教育委員会としてもできることはやっつけていこうと思っている。
- 早田教育委員 再建をするか悩まれているというのが本当のところ、高校生になって、電車がなくて通えないというのが一番ネックだと聞いている。戻って子育てをしたいが、中学生まではスクールバスがあるが、高校生になって通えないから戻ることが難しいんじゃないかという方が多い。そこがクリアできると坂本に戻って、学校に行って、育てるという選択肢も出てくるのかと思う。
- 福本教育部次長 JR 肥薩線は、不通になっていて、復旧の目途は立っていない。公共交通として、路線バスや乗合タクシーの運行を市が行っている。通学に合わせて使うなどの住民の声があれば、通学に合わせた時間帯になるかと思う。
- 〈報告第30号〉 第6回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について
- 高嶋学校教育課長 11月24日に開催した第6回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について、会議録により説明
- 渡邊教育委員 今後のスケジュールを教えてください
- 高嶋学校教育課長 今後は、答申案の修正分を各委員に年内に送り、意見をいただき、最終的に固まったものを2月に答申を審議会から出して

いただくというように考えている。

奥村教育委員 総合的な幼児教育センターの機能が重要であるという記述があり、ありがたい。保育園の先生は、幼稚園の先生と研修をして教材づくりや保育指導の在り方を勉強するのが効果的だということが、この提案の初期の意見交換だった。そういうことを踏まえて幼児教育センターの機能が検討されるのありがたいと思う。管轄が文科省と厚労省の関係の方たちが、センター機能を生かしながら合同で研修をするというのは難しいだろうと思ったが、審議会の中で、機能の具体的な姿としてご意見等が出てきたか。

高嶋学校教育課長 委員の意見としてではなくて、実際、今、センター的機能として、市全体ではなく、その校区にある幼稚園が公開保育をし、見てもらって、意見交換をするなどの情報を発信しているというところがある。

4. 連絡事項
- | | |
|------------|----------------------------------|
| 教育政策課 | 八代市学校給食施設再編整備方針（案）のパブリックコメントについて |
| 学校教育課 | 小・中学校卒業式について |
| 生涯学習課 | 成人式について |
| 教育サポートセンター | くま川教室閉級式・開級式について |
| 事務局 | 1月定例会日程確認（1/20 14：00～） |

5. 会議録署名委員の指名 渡邊委員・早田委員

6. 閉会 (午後3時57分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

記録者
